



Title	タイ語翻訳を行っての感想
Author(s)	รัชนิวงศ์, จารุภา
Citation	多言語翻訳 : 葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』. 2013, p. 68-69
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61312
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2015年2月13日

タイ語翻訳を行っての感想

ラチャニーウォン チャールパー

○翻訳する際に難しかった点

翻訳した際に難しかった点は以下のとおりである。

1) 言葉・表現の問題

-工事に関する言葉を翻訳するのにとくに困難を感じた。例えば、「セメントあけ」、「セメント桟」などである。セメントを作るプロセスの説明は難しかった。

-文化に関する表、すなわち、「丼（どんぶり）」や「弁当箱を首に巻きつけ」という箇所も難しかった。どうやって簡潔にタイ語に翻訳すればいいのか、なかなか分からなかった。

-筆者はどのようなイメージをもって書いているか知りたかった場合もある。例えば、「ズボンの尻でこすった」などがそれに当たる。

2) 感情の問題

-作品を読んだ時、登場人物の気持ちをどう翻訳すればいいか、分からない場合があった。例えば、「はげしい音に呪（のろい）の声を叫びながら、砕かれました。」のような不思議なシーンや「どんなに固く私を抱いて」という表現がそれである。

-手紙を書いた女の労働者の言葉をどのように、そのわざと丁寧に書いている感じをどのように表すことができるか。

-怒りや感情的な表現はどのレベルまでタイ語に翻訳すればいいか。例えば、「籠棒奴！ どうして飲めるんだい！」と「へべれけに酔っ払いてえなあ。そうして何もかも打ち壊して見てえなあ」と怒鳴った。」などはどう訳出すればよいか？

○**先行の翻訳と自分の翻訳との違い（先行翻訳との間で、とくに工夫した点や留意した点など）**

本作は、まだタイ語に翻訳されていない。

○**自分の国には似たような小説があるか**

内容の点から見れば、たとえば、トヨタ財団の基金によって、2000年に日本語に翻訳された作品『ヨム河』（Taling Soong, Sumg Nak）（ニコム・ラーヤワー著、飯島明子訳、段々社）が、労働者の困窮する姿を扱っており、似ていると感じた。



○**日本で本作品が国語の教科書（高校生）に掲載されていることについて**

このような社会問題に関する小説はすこし重い内容を持っていると思う。ただ、高校生たちにとって、このような作品を読むことは、労働者の問題を考えさせるのにいい機会だと思う。タイの高校生が国語の時間に読むリストを見ると、重い内容を持つテキストはほとんど教科書に収録されていないことが分かる。